

花巻市石鳥谷地域協議会 平成24年度第2回会議 会議録

【日 時】 平成24年7月19日（木）午後1時30分～午後3時23分

【場 所】 石鳥谷総合支所 3階 大会議室

【出席者】 出席委員：13名（欠席委員：2名 樋口正洋、立花英一）
熊谷弘子、高橋貢、岩館大輔、伊藤邦彦、菅原久男、熊谷幸雄、
玉山規矩夫、藤根勝榮、藤原眞紀男、菅原昭造、似内英悦、
晴山美紀子、佐々木さつき

事務局出席者（石鳥谷総合支所）：8名

菅原総合支所長、伊藤地域振興課長、熊谷市民サービス課長、関地
域支援監、菅原地域振興課長補佐、高橋同課長補佐、佐々木地域づ
くり係長、熊谷主査

【協 議】

○石鳥谷における地域課題について

- ・8名の委員から地域課題11件の提案があり、うち9件について提案した委員から提案趣旨説明を受けた。

【その他】 会議を傍聴した者 なし

※ 会議での発言等は別紙顛末のとおり

※ 会議における配付資料は以下のとおり

資料1 高齢者福祉サービス一覧、住宅改修費の支給について（介護保
険）、湯のまちホットサービス事業について

資料2 はた織り講座等の開設状況等について

資料3 酒造り従事者数、酒蔵まつり開催チラシ、「オールいわて清酒」
について

資料4 中心市街地新規出店者経営支援事業について、「小さな百貨店ぶ
らっと」オープンチラシ

資料5 権現堂山案内看板について

資料6 石鳥谷地域コミュニティの若い世代を対象とした事業について

顛末

○ 進行／伊藤地域振興課長

1 開 会 似内英悦副会長が開会を宣した。13：30

2 挨拶

菅原昭造会長

今日も忙しいところありがとうございます。

第2回ということではありますが、この会合は石鳥谷地域にとりましては、唯一のそれぞれの責任ある方々の話し合いの場であります。私は長いことこの会の会長を仰せつかっておりますが、極めて実直で具体的な提案をいただいております。すべてが市にやってもらおうということではなく、市にお願いするものは市にお願いする。あるいは、議員の方にお話しするのは、議員の方にお話しする。市の職員の方にお話しするのは職員の方にお話しする。と、というような仕分けの中で、我々のできるものは何かということで話し合いを進めて参りました。今日は委員の方々からそれぞれご提案をいただいておりますので、その中身についてお話しいただきたいと存じます。

市長からの諮問はありませんが、自主的に自発的に、前回お約束をしたとおりこの場にお集まりをいただいて、お話し合いをいただくこととなっております。皆さん真摯にこの会議に臨んでいただき大変心強く思っているところでございます。どうぞ忌憚のないご意見をお願いいたします。どうぞよろしく願いいたします。

3 協 議

菅原昭造会長

それでは、提案して意義なしという方式ではありませんので、自由に発言していただいて結構ですが、順序立てて提案して参りますのでよろしく願いいたします。

石鳥谷地域における地域課題ということでお考えになっていることひとつずつお話しいただいて、後は総括的な話し合いにしていきたいと思いますが、そのような形で進めていってよろしいでしょうか。

「はい」という声あり。

菅原昭造会長

では、資料の順序によりまして、提案した方から課題の趣旨について、あるいは提案の趣旨についてまずはお話をいただくことといたします。

高齢者福祉についてということで高橋貢委員さんからご提案をいただいております。

高橋貢委員

はい。民生委員の高橋でございます。高齢者福祉をあげさせていただきました。皆さんの地域もそうだと思いますが、ここ何年かのうちに高齢化が進んでおります。私は新堀の第6区を担当しておりますが、新堀第6区の数字のお話を申し上げたいと思います。私が民生委員になった16年12月から今年の6月にどうなったかということだけ申し上げます。

一人暮らしの高齢者世帯は、16年は12世帯ありました。それが24年の6月には27世帯になりました。それから、一人暮らし以外の高齢者世帯は、16年は10世帯、24年は21世帯。三日堀地区の16年の人口は780名おりましたが今年は665名となっております。そして、65歳以上の高齢者といわれる人数は、16年度は124名、24年6月時点では182名。敬老祭にご招待を受ける75歳以上の高齢者に限って言えば、16年は52名、24年は89名となっております。一人暮らし世帯や高齢者世帯では倍以上、人口は逆に15パーセントの減少となっております。少子高齢化と端的に言われていますが、私が担当する新堀第6区でも顕著に現れています。これが、今後どのように進むかということが大きな問題になっていく可能性があるのではないかと課題として提案させていただきました。

高齢者在宅介護は、在宅で暮らしたいあるいは在宅で自分の一生を終えたいという思いは多くの方が持っておられると思いますけれども、なかなか現状ではうまくいかないということがあると思います。介護施設等は増床されておりますが、依然として待機者がたくさんいらっしゃる聞いております。また、費用の面でいろいろ問題になっていると聞いております。それから、今年度は介護保険が改正されて基本的な保険料の負担が増えております。いろいろ難しい問題があるでしょうけれども、原資区分の見直し、今までと同じ見直しでは保険料が上がっていくのではないかと心配されております。

それから、介護の問題では、高齢者同士、奥さん、旦那さんの老老介護が非常に増加しています。この介護の問題は、家族から近隣、地域への広がりをと叫ばれてはいますがなかなか難しいのが現状であります。

交通手段ですが、公共バスなど、石鳥谷ではデマンドタクシーがありますが、買い物、通院、あるいは行政窓口や金融機関へ出かける場合、自分の足をもたない人にとっては難しいという問題があります。

それから、行政サービスの改善・要望点としては、高齢者向けの書類というものを簡素化する、または文字を大きくする。あるいは、平易な表現にする等、手続きの利便性なども考えていただければと思います。あと一步踏み込めば、窓口で待っているのではなく、高齢者世帯に訪問するサービスもこれからは必要ではないかと課題提起させていただきました。以上です。

菅原昭造会長

ありがとうございました。みなさんから、関連してご意見、または、役所側に対しての質問でも結構です。ご発言をお願いします。

増床のことについてどうなっているか、数字出してもらえませんか。例えば、24年度だけでも結構です。

熊谷市民サービス課長

数字を持ち合わせておりませんでしたので、少し時間をいただきたいと思えます。

菅原昭造会長

いずれいろんな形で、ベッドの数は増えていますが、入所希望者の方が増えて追いつかないというのが正直な姿のようであります。そのことを高橋委員さんをご指摘なさったということでもあります。だからと言って、あまりに増やしますとすべて介護保険料に跳ね返ってまいります。介護保険料が高くなるのは困るといって、非常に微妙なバランスで成り立っているということを第一の認識としてお話ししたいと思えます。

あと、費用のことについての提案であります。似内委員さんがお分かりかと。

似内英悦委員

特別介護老人ホームに入所となると、安くはなります。ただ、グループホーム等いわゆる第2種福祉サービスと言いますが、特別養護老人ホーム以外になりますと、経費はかかります。それは、国から来る介護保険料が少ないということからいたしかたないということになります。

介護保険料を上げないということで、この頃見えてきている厚生労働省の動きというのは、介護施設を増やさないという考え方ではないと思えます。そしてむしろ、在宅介護の方にシフトしているような感じがします。あと十年すれば特別養護老人ホームなどは、定員割れをするというようなことを見据えているのではないかと思います。つまり、私たち（団塊の世代）が施設に入ってあの世に行ってから少子化の時代になりますので、それを国自体も見ているのではないかと私は思っています。

菅原昭造会長

そのとおりと思えます。例えば、私が倒れた時に子どもが仕事をやめて見てくれるかということは、出来ない話ですよね。施設を経営する立場でも苦慮しております。施設に入りたい入りたいという人はたくさんいますが、この先10年を考えたときは、在宅介護に完全にシフトされています。

それならば、どうすればいいかというのが高橋委員さんからのお話であります。地域介護といいますが、隣の人がなんとという人かわからないような今の時代です。

お互いに知恵を出し合わないこの問題は克服できないのかなと思います。

熊谷委員さん、何かこのことに関してご意見ございませんか。

熊谷弘子委員

私も、姑を10年介護してきましたが、デイサービスを使った時に比べて、いしどりや荘（特別養護老人ホーム）に入った時に経費が半分になりました。別な施設では最低15万はかかるということで、誰か家族が働いていればいいとしても、私はひとりでの介護でしたので正直言って大変でした。施設では職員の人たちに親身に介護してもらって、家族としては安心したというのが事実でした。

でも、入所した本人は、家族がくるのを待っているんですね。だから、毎日とはいかなくても、行って見なくてはという心の負担もありました。介護される人ばかりではなく家族の方もケアすることが大事ではないのかなというのが、経験者として私は思っております。

菅原昭造会長

経験された方でないとわからない苦労だと思います。

今日は、課題解決には入りませんので、提案された事柄について、一般的な認識を深めるために発言をいただいております。したがって、今日はまだ何人かの方々から提案頂いております。高齢者福祉についてのご意見で、日頃お感じになっていることなにかございませんでしょうか。

熊谷委員さんいかがですか。

熊谷幸雄委員

私は今回で（委員が）3期目ですが、1期目の委員の時にはこのことについて発言しました。

その時は、入所希望のため窓口で待機している人が多いということがわかっていましたので、待機者の数を連携して把握して数字で表してくれないかということをお話しました。これからは、増床を望めないというのが状況のようですので、施設間のネットワークなどをつくって、待機者の在宅介護をどうするかということに力を入れるべきなのかなと今は思います。

菅原昭造会長

ここ数年、役所側の対応もよくなっております。最近では、包括支援センターの対応であります。花巻市ではすべて社会福祉協議会に委託しております。今お話があったような相談に対しましては、かなり丁寧になってまいります。以前は、勝手に探してという雰囲気が強かったんですが、今は役所も待機者を把握しておりますし、包括支援センターの方も社会福祉協議会が窓口となってかなり変わったと思っております。実際のところは、いしどりや荘の場合も、毎年の入所者以上に希望者が多いという状態であります。

小原市民サービス課長補佐

高齢者福祉サービスについては、多種多様なサービスがございまして、関する数値について、次回にご報告させていただきます。

熊谷市民サービス課長

(資料No. 1 の説明)

菅原昭造会長

高齢者福祉について、よく聞かれることで、新たに開所するところについて情報はないですか。

高橋地域振興課長補佐

国土交通省所管の住宅事業の補助をもらった住宅で、簡単にいうと、いわゆる老人のアパートですが、プラスして介護もする、デイサービス付きということになります。株式会社です。

似内英悦委員

高齢者アパートですね。基本的には高齢者のためのアパートですが、一つはデイサービス付きという名前を付けて、ごはんを食べたい方は頼めばそこでデイサービスで食べさせてくれるというものです。具合が悪くなったので何々して欲しいとか買い物に行ってきて欲しいなどには、在宅介護支援サービス事業もする。建物の中には、介護士さんと介護職員もいるというものです。考え方は別々の組織です。アパートに入居している人は、介護をして欲しい時は契約してデイサービスを受け食事をし、在宅支援サービス事業者と契約をして買い物してもらったりするということです。

菅原昭造会長

あえて今、この橋渡しをしたわけですが、この高齢者福祉は、特養とか老人ホームだけでなく大変メニューが多いため、あれは何だと聞かれるわけです。一人暮らしになった、あるいは、いろんな形で自分の始末ができなくなったある程度経済的な余裕のある人が、今言ったような高齢者アパートに入ったときは、不自由になったとき、あるいは日によって体調が優れない時、有料介護サービスを受けるといった複合的な有料サービスを選択したということなんです。

利用される方は、なんとしても老人ホームしかないとか、特養しかないと考えたと待機者は減らないですが、メニューがたくさんありますので、それは、包括支援センターですべて相談を受けます。分かりやすい説明を受けられますので、関係の方にはお話をさせていただきたいと思っております。

藤根勝榮委員

今までの話とは違いますが、花巻市シルバー人材センターの会員の方とお話したんですが、業務の中に在宅介護のような仕事もありまして、掃除をするなど資格がなくてもできることをサービスとして時間を点数制にしてためておき、自分が必要になったときサービスをしてもらうということ、シルバー人材センターとして取り入れてもいいのではないかとお話ししたんです。

今までお話しがあったのは公的なことだと思います。一つの考え方として、こういったことも取り入れてはどうかと思った次第です。

菅原昭造会長

実はそれに近い話が、包括支援センターにも話がありました。ある一人暮らしの高齢者の方が家が広くて掃除が大変だと、なんとかしてくれないかと話がありました。今の話と区分けして話をさせていただきました。一つはホームヘルパーということで援護することになれば、当然介護認定を受けなければならないんですが、健常者で一人暮らしである程度経済的余裕のある人は、有料で人材派遣を受けることはできますよということまでは説明しました。そういう訳で、健常者であっても身の回りのことについて必要なことはあるということで、この辺でよろしいでしょうか。

委員多数、頷く。

菅原昭造会長

それでは、岩館大輔委員さんからの提案よろしいでしょうか。

岩館大輔委員

私は、商工会議所青年部で活動をしています。地域課題ということで、商工会議所青年部の立場から考えました。地域共同体の再生というかなり大きなタイトルですが、少子化、人口減少、流出ですよね。そしてあらゆる産業、組織も含めて後継者がいないということ。青少年の育成であるとか、この町全体で何か一つのことに取り組むというか、何か軸のようなものがあればいろいろ活性化に向けて何か動くのではないかという気がしていますが、1つ問題を解決しようとする、と、どんどん問題がリンクして行って、1つ1つに対処療法をしてもしょうがないのではというような感想を持っていました。

商工会議所なので町の活性化としていろいろやっていますが、短期的な対策として酒まつりを開催してみたり、酒蔵交流館というところにイルミネーションを設置して町を明るくしようかとやってみたり、そういうことをしていますが、ほんとに対処療法というかカンフル剤を注入しているだけで、長期的な対策になってないです。これは、本当に石鳥谷の人たちみんな参加できるような、これは官民です。行政の力もいただいて何かやっていければと思っています。それは模索

中ですが、皆さんに何かいいアイデアはないかと思い提案させていただきました。

菅原昭造会長

何かいいアイデアはないか、皆さんのご意見はいかがでしょう。

菅原久男委員

今年から、花巻市協働まちづくり人材育成協議会ということで、それぞれの地域から受講生を募集しました。これから地域のリーダーとなる人のリーダー育成ですが、この場をうまく利用したら花巻市全体で活性化するにはどうしたらいいかと考えるいいチャンスではと思いました。

菅原昭造会長

それは、市の事業ですか。

関地域支援監

各コミュニティ自体が5年経過していますが、後継者が育っていないという問題がありまして、なんとかしたいと。そのきっかけづくりとして花巻中央地区コミュニティ会議の福岡勝夫会長さんの方で中心になって村井研二さんが所属するNPO法人とタイアップして、人材づくりの団体を作り講座を開いてやっていきたいと思いますということ。その計画が出まして、市がそれに乗って市内の27コミュニティ会議や大学に声かけて、人材育成をやろうということ。今年は見送り、4月からスタートしたいと聞いていました。

藤根勝榮委員

今、岩館さんから出た課題は、このあとに出てくる7、9、10、11と同様の関連した課題ではないかと思えます。一括してやったほうが、なおいいアイデアが出るのではないのでしょうか。

菅原昭造会長

なるほどそうですね。

似内英悦委員

私の提案は関連します。

菅原昭造会長

関連したことがすべてに行き渡っておりますので、それぞれ提案者からお話しいただいて、総括的に話し合いということに致したいと思えます。よろしいでしょうか。藤根さんからお話のあったように進めてまいります。

委員多数、頷く。

菅原昭造会長

岩館さん、そういうことで一緒に進めてまいります。

岩館大輔委員

はい。

菅原昭造会長

それでは玉山さんの課題は、生涯学習に関わりあるようでございますので、趣旨をお願いいたします。

玉山規矩夫委員

私は、合併前の石鳥谷町の農業伝承館建設に伴い、その中にはた織り機械が整備されたので、生涯学習の生きがいつくり事業としてそれを使って伝承講座というものをやってきました。ここで毎年講座を開いて後継者を育ててきましたが、資料にもございますように、そのほかに、グリーンツーリズムでの体験のメニューなど他の講座にはない取り組みをしています。

そこで、受講した人が、もっと体験したいという場合に対して、その受け皿がないということを感じています。旧花巻市では、教育委員会が中心になって湯口公民館などに建物とはた織り機械を整備したということを知っています。そういうことを知っていますので、なぜ石鳥谷にはないのかという話がでてきます。はたおり同好会は、講座利用の合間に利用しているというのが実情ですから、施設を設けてもらってもいいのではないかとということで提案を致しました。

生きがいつくりとして施設を設ける考えはないかということです。空いている施設を活用してはどうかと考えます。はた織り機械の購入に石鳥谷でも経費をかけてもいいのではないかと、教育委員会の姿勢も確かめてみたいと思います。はた織りは趣味としての魅力があるものですし、大勢の人が生きがいを見出しているということが言えますので、石鳥谷にも施設を整備してはどうかと思った次第です。

菅原昭造会長

はい。要するに、施設、常時使用できる施設があればいいということなんでしょう。

玉山規矩夫委員

部屋ですね。機械を置く関係で専用の部屋をとということです。

菅原昭造会長

どうでしょうか。空き施設について。

伊藤地域振興課長

生涯学習会館を見ますと、空いている部屋はあると言えはる。しかし、それがふさわしいかはどうかかわからないですが。

菅原昭造会長

空き部屋といったら、福祉センターの2階もほとんど使っていません。老人クラブの事務室にはなっていますが、保健センターを使うためです。生涯学習会館も含めて、規制があるかないかも含めて、どうぞお互いに研究してみませんか。空き部屋は確かにあるんですが、条件が叶うかどうかは、それぞれの施設の管理主体が判断することでしょうから。

玉山規矩夫委員

一つお願いします。

菅原昭造会長

どうぞ。

玉山規矩夫委員

先ほどの岩館さんの提案にも関わることですが、立派な施設でなくても、商店街の空き店舗をそういうものにあてがって、販売したり、そういうことをやりたいなという人がお茶を飲んだり、はた織りを習ったり、体験したりそういうこともあるのかなと一つの方法として思ったところです。

菅原昭造会長

空き部屋、空き店舗はたくさんありますが、そのことを含めてこれからの協議材料にさせていただきたいと思います。

それでは、また次に移らせていただきまして、元に戻ります。藤根さんの課題、酒まつりについてです。

藤根勝榮委員

資料を出しましたが、南部杜氏の里として酒造りの関係者だけではなく、原料の生産から商品作りまで大きな中で進めてはどうかなと。農家の方も雑穀を作るより収益が多いはずで。杜氏さんを通じて全国に米を使ってもらおうということも出でくるのではないか。そういう意味では、岩手県の進める酒の酵母もいい評価を受けているので、そういう石鳥谷町だけでなく、南部杜氏の里だということ踏まえて、県内の大きなイベントにすればいいのではないかと思ひまして提案いたしました。以上です。

菅原昭造会長

南部杜氏協会の会長が全国の会長になったということだそうですから、いろいろな関わりの中で、県内外に呼びかける、PRできるチャンスがきたのかなという感じがしますので、このことについても十分に後で議論していただきたいと思っています。

それでは、同じく藤根さんからの提案の町のイメージを高めたいということについてお願いいたします。

藤根勝榮委員

小さな百貨店がオープンしたということで私も行ってみました。すごくいいですね。ホッとした感じがして。ただ、買うものがない。周りもシャッターの下りた店舗がかなりあるんですね。これも行政の力を借りないとダメなんだと思いますけれども、もう少し町内の商店街から持ってきてもいいから、皆さんの欲しいものを、百貨店ということですからもう少し品数を増やしてはどうかと思うわけです。今のままでは、ほんの一部の人たちの利用になってしまうのではないかと。ここに書いてあるように、子どもからお年寄りまでの憩いの場所じゃないけれども、買い物帰りに休むとなれば、あの場所だけでは狭いし、さらに、シャッターの店も開けてもらって、そこに行けばこんなものが買えるよというような、あるいはいろいろな人に会えるよというような場所であってほしいなあと。そういうことが、本当の意味の商店街の活性化で、いろいろしているイベントと重ねてやっていかないと、と思います。この小さな百貨店をたまにではなく毎日行く百貨店に発展させてほしいなと思います。そんな思いで出しました。

菅原昭造会長

小さな百貨店は、どこがやっているんですか。

岩館大輔委員

中央通り商店街です。かなり関係者の方がかなりご苦労なさって品数を揃えて運営していると聞いています。

藤根勝榮委員

特定の人のもものにならないように、外部の人をいれてやってみてもいいのではないのでしょうか。どこか、近くの人たちばかりではなく何か。

晴山美紀子委員

私は、利用者の立場からですが、オープンから行っていますがずっとにぎやかになりました。皆さんの努力でよくなりました。「あれないの。」と聞くと、「お店の人に届けてもらうよ。」ということがあります。歩いて行けないからと

相談すればもって来てくれるよと。そういう情報をもっともっと知らせたらいいと思います。通院の帰りには病院の前で待つのではなくて、そこで待つとか、そういう場所がもうひとつあればと思います。

菅原昭造会長

前向きな、期待する発言がありましたので、後で議論したいと思います。概要だけ皆さんからお話をいただいております。もうひとつ、藤根委員さんからの提案があります。権現堂山についてどうぞ。

藤根勝榮委員

これは、一番は道路の問題です。この間の集中豪雨ではせっかく敷いた砕石が流れてしまうので、できるだけ直していただくようお願いしていますが、中高年者の登山ブームもありますので、ある程度は車で登りたいと考えると、車でのバックもままならないので、大きな意味でもっと道路整備をしていかないとせっかくの地域資源である財産を活用できないと思ひまして、みなさんのご検討をいただきたいと思います。振興センターの方々がおられるわけですが、こういう時代なので、資源の活用のお金の掛かることは難しいわけですが、何年かかかっても整備したいなど、今年は案内板を振興センターで整備しましたが、道路の整備が必要ではということで提案させていただきました。

菅原昭造会長

整備の状況についてお願いします。

高橋地域振興課長補佐

権現堂山登山道は、市道名で言いますと山屋開拓線ですが、この道路につきましては、平成8年度から整備が始まり、合併直後の18年まで整備をしておりました。昨年度八重畑コミュニティ協議会から、側溝整備の内容で要望があり今年度採択されましたので、現在地元の区長さん等と協議をしており、ご要望のとおり側溝の整備をすることになっております。

短い区間に相当の高低差がある場所がありますので、勾配を改善することはなかなか難しい面があるだろうと思います。今後のことは未定であり地元と協議していくことになろうかと思ひます。

菅原昭造会長

権現堂山の件につきましては、整備の工夫がされているようでありますので、今後協議してまいりたいと思ひます。

似内委員さんからお願いします。

似内英悦委員

はい。私の提案は、先程話がありましたとおり、皆さんの提案に共通する話題ではないかと思えます。岩館君の地域共同体という考え方、その中には、町全体の一体感、各種イベント、町民一体となって取り組むことが何かほしいなということを出してきたことですし、玉山規矩夫委員さんからは生涯学習でのひとつのまちづくりがほしいというので出てきたのではないかと思いますし、それぞれの地区でコミュニティ会議があってそれぞれの活動をしているんですが、わずか5年たったばかりで言うのもなんですが、石鳥谷地域で何か共同事業があってもいいのではないか、共同事業でなくてもまとまった形で事業を展開してはどうかという感じがいたしております。

コミュニティ会議としては、石鳥谷町人会に各コミュニティ会議から予算を出し合って郷土芸能団体の派遣をしているわけでありまして。各コミュニティ会議が石鳥谷全体のことについて、経費を出しあっていくということもいいのではないかとということで提案させていただきました。

この共同事業でこんなものがあるよということはこの地域協議会として、コミュニティ会議に提案してはどうかという提案をしたいと思えます。

菅原昭造会長

非常に重要な問題として、以前から扱ってまいりましたが、こちらの方から具体的な提案をしてはどうかということはありませんでしたが、会長会議の中で、これまでの経緯でこういったことはありましたか。

関地域支援監

在京町人会の件は順調に進んでおりまして今年で4年目です。ある程度軌道に乗ったなという感じがしています。これから先のことについては具体的な話は出ておりません。

菅原昭造会長

個々のコミュニティ会議は一生懸命やっているわけですが、それを超えるような課題があった場合を想定しながら、共同事業を実施してはどうかということを提案してはどうかという提案であります。大事な提案であろうと思えます。後で十分吟味していきたいと思えます。この段階で何かございますか。

熊谷委員さん何かありませんか。

熊谷幸雄委員

このことは、似内英悦委員さんが支所長さんをしていたときに言っていたものかなと思っております。具体的にスポーツ行事としては、大きな行事は既に行っていますので、ソフトミニバレー、軽スポーツ大会になりました。町人会との交流については、市川さんが継承して各地区から予算を出し合って6地区の交流を行うという事業として軌道に乗ってきました。会議も行われ決まったところです。

今6地区で一緒に行くことについては、スポーツ推進員が行っている軽スポーツ大会はどうかと思っています。それ以外は次回にいたします。

菅原昭造会長

それでは、ひとつの方向性はできつつありますので、具体的な内容につきましては、今後の会議でということにいたします。

晴山さんから、商店街の活性化ということについてお願いします。

晴山美紀子委員

岩館さんたち商工会議所青年部の活動を見て、がんばってほしいなあと思ってます。提案にはいろいろ書きましたが、何とか、岩館さんたち商工会議所青年部を先に立てて、活性化の事業を続けていくことができないものかと思ったりしています。

石鳥谷出身の若者で盛岡に居酒屋を出して成功した人がいます。彼が紫波のオガールに出店しました。私はどうして石鳥谷に出してくれないのかと思い、そういう受け皿が石鳥谷にあったらなと思いました。若者が集まる場所がほしいとか、チャンスがほしいなどと話を聞きますが、そんな話をする場、飲んで、話して、団結してというような若者の場があればいいと思いますし、少ないなと思っておりますので、オガールのように広くなくてもいいので、石鳥谷にも1つ2つあればと思っています。

私は今まで、いろんな団体に所属していろんな活動をさせていただいておりましたが、石鳥谷町民の力は負けていないと思っております。女性団体でも、合併したことで活動がしぼんだことも実感してきましたし、合併しなかったら今頃どうなっていたかなと思うこともあります。この間、他の町のチャレンジデーの話題が出まして、合併前のチャレンジデーでは盛り上がったことなどを思い出しました。例えば、チャレンジデーは花巻全体でやらなくても石鳥谷でやれるのではとか、そういう単位でやれること運動とか、花巻全体でやらなくても石鳥谷でできることをもっと考えていけばいいのではないかと考えております。

提案に書いたことはこのとおりでございますので、よろしく願いいたします。

菅原昭造会長

はい。宝峰の空き地について、何か情報はありますか。

何も情報はないようですね。それでは、これも次回とさせていただきます。若い世代のコミュニティ参画について佐々木委員さんお願いします。

佐々木さつき委員

はい。私の提案は、似内英悦委員さん、岩館委員さんや、皆さんの提案と絡んでくると思います。

私は八重畑コミュニティ協議会に所属をしております。しかし、周りを見ます

と私の先輩や父母世代の方で、まだまだ現役で活躍する方ばかりです。でも、少しさびしいなと感じています。ちょっと言いたくても、まだ言える立場ではないのかなと思うこともあります。具体的に30代、40代と書いていますが、子どもが小学校・中学校のうち小学校の単位での地域の関わりで、おじいちゃん、おばあちゃんの顔もわかるという小さい単位ですけれども、30代後半、40代後半になって子どもが高校になると、地域との関わりがパタッと途絶えてしまいます。私はコミュニティにかかわっているので顔がわかりますが、地元にいても、お勤めの方、特にお嫁に来た方は、本当に誰が誰だかわからない、関わるどころもない、何かしたくても誰に言えばいいのかな、ということがあると思います。

そうだとしたら、そういう忙しい世代ではあるけれども、そういう人たちに、コミュニティで企画することにどんどん参加してもらって、石鳥谷っていいところだなというところを再認識していただければ、ゆくゆくは定着とか、定住というところに行き着くのではないかと考えています。

その他のところで、参考資料として出してくださいとお願いした資料のNo.6ですが、小学生とか親子ではなく、もう少し純粹に若い世代事業で見渡してみても、料理教室しかないんだなと思いました。30代40代に何か機会を与えていただければと思い、課題を提案いたしました。

菅原昭造会長

ありがとうございました。

協議会で吟味する内容が揃いました。総括的に今後に向けての話し合いに入らせていただきたいと思います。まず、オープンな立場でこの機会に何かございませんか。どうぞ。

藤根勝榮委員

はい。私の集落で花見をしました。集落には20代30代の人たちがいますから、その人たち一人ひとりに文書を出しました。各戸ひとりといわずみんなで飲みましょうと。集まってみたら8割くらいの方は参加してくれました。ほとんど普段は顔を合わせることがないのですが、話してみたらこういう機会があればいいなと言ってくれました。若い人は仕事に行っているからだめだとか言わないで、われわれ年寄りも若い人たちに声をかけて交流する場を少しずつ増やしていくことしかないかなと。今はそれぞれの会社、勤めの形態、職業の多い中で調整は大変だからと言ってはだめだなと。実際に花見をやってみて思いました。

何かのアクションを起こして、少しずつでも集まる機会を増やして、話をする機会を増やしていくことで、参加者の広がりにつなげていこうというようなことですが、石鳥谷町内でも同じことだと思います。これをやったから大勢の人が集まるようなことはないのではないかと。町人会のことも4、5年かかったということですから、こういう、長・中期のスパンでものを考えていかないと、一気にこれをして良かったということはないかなかな行かないのではないかと。こういう小

さいことから取り組んだほうがいいのではないかと思ったところです。意見です。

菅原昭造会長

はい。ありがとうございました。
藤原眞紀男さんいかがですか。

藤原眞紀男委員

子どもの健康問題について、香川県では全県で調査をしたそうです。健康問題は、食生活改善や医療問題につながる問題であり、今の子ども達が果たしてみんな健康なのか何か確認する方法はないだろうかと思ったところです。

健康問題でもうひとつ、平均寿命と健康寿命を比べると健康寿命は9歳から10歳くらい下がっていてこの差が、介護であったり寝たきりであったりということだそうです。厚生労働省の方で指針が出ていて、この差をできるだけ縮めていこうというものだったと思います。ですから、そういうような取り組みも高橋委員さんの言われた高齢者福祉と、うまく絡めた健康維持、健康増進というようなもの何かすることはできないだろうかということを考えましたけれども、先ほどは言えませんでした。

みなさんからの提案を拝見すると、活性化の意見が多かったと思います。既存の石鳥谷まつりのようなものも、何かみんなが参加したくなるような、形に作りかえるくらいの考えがあつていいのではと思いました。

菅原昭造会長

はい。それでは、論点を整理して次回につなげたいと思います。
今日の段階で、ぜひとも発言したいという方ご発言をお願いいたします。
伊藤委員さん、いかがですか。

伊藤邦彦委員

石鳥谷まつりについては、今までのようなパレードに参加するだけでなく、それぞれの地区の住民がまつりに参加できる場面があれば、より参加した感が得られるのではないかと思います。

30代の地域参画については、昔あつた、土曜よ市、JAまつり、盆踊りなどを復活したとしても、30代はどう動いていいかわからないと思います。盆踊りをやってみたらという意見もありますが、できれば、40代、50代の少し上の人たちでやってみて、30代を呼び込んで、手本になって盛り上げてほしいと思います。

私は、2歳と0歳の息子がいますが、石鳥谷の街は子どもを連れて行きたいところではないと感じます。出かけたら、買い物をして遊んでそしてご飯を食べてという流れを考えれば、子どもとご飯を食べる店がない、子どものスペースも保健センターとかしかないので、子どもを連れて親子で行くメリットがないと感じます。公園へ行っても、遊びたいところに広い駐車スペースがないとか、子ども

に優しいまちづくりにはなっていないと思います。5年前に地元に戻ってきて感じたことです。

菅原昭造会長

岩館委員さんいかがですか。

岩館大輔委員

石鳥谷まつりに関しては、9月8日、9日が熊野神社の例大祭で地元のお祭りです。それに10日のパレードがあって今の石鳥谷まつりになっているので、それをすぐには変えられないのではと思います。

盆踊りについては、振興センターでの取り組みで復活しようということもあるのではないのでしょうか。たとえば、各地区同日開催なんていうのもあると思います。

酒蔵まつりは年4回行っていますが、主催者としてやっていて一番良かった点は、仲間が増えたことです。JA青年部さんですが、いろんな活動をしていることを知ることができました。いろんなエリアでいろんなことをしている人をネットワークしてつなぎたいと思っています。これはその先駆けとなるようなイベントにしたいと思っています。うちの地域でもやってみたいということがあったら、こうしたらどうかということ発信したいと思っています。

菅原昭造会長

菅原委員さん、いかがですか。

菅原久男委員

大瀬川地域では、石鳥谷まつりに参加するという意識はあると思います。パレードの手踊りだけの参加ですが、時期になると練習をしています。そういう参加の仕方もあると思います。

話は変わりますが、今年、マレットゴルフの全国大会が10月8日、9日に石鳥谷で開催されることが決定しました。250名位の選手が来ます。参加賞には、できるだけ石鳥谷町の特産品を出したいと、少なくとも花巻の特産品を使いたいと考えています。

菅原昭造会長

全国大会というのは、その開催地をPRする良い機会となりますね。時間がせまって参りましたがこの機会にご発言を。

藤原眞紀男委員

毎回のテーマについては、一応整理ということになるのでしょうか。

菅原昭造会長

この前の話のとおり、継続的なものは今後も継続していくということです。

藤原真紀男委員

はい。わかりました。

菅原昭造会長

今日話し合われたことは、論点を整理したうえで、具体的に個々に検討するよ
うな会議にしたいと思っておりますが、そういう進め方でよろしいでしょうか。

「はい」という声多数。

菅原昭造会長

それでは、今日の提案していただいたことについての話し合いは以上にさせて
いただきます。

4 そ の 他

菅原昭造会長

その他は何かありますか。

伊藤地域振興課長

ありません。次回の会議日程についてお願いします。

(次回日程について、会長一任することを確認して協議を閉じた。)

5 閉 会

似内英悦副会長が閉会を宣した。15：23